

雲南大学中日国際シンポジウム開かれる : 於:姉妹 提携校の雲南大学で

著者	安保 邦彦
雑誌名	東邦学誌
巻	36
号	1
ページ	123
発行年	2007-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000135/

雲南大学中日国際シンポジウム開かれる — 於：姉妹提携校の雲南大学で —

安 保 邦 彦

本校の姉妹提携校である中国雲南省・昆明にある雲南大学経済学院との間で日中の学者による国際シンポジウム「経済のグローバル化と東アジア共同体構想」が2007年3月23日に同大学社会科学院で開かれました。日本側は、坂本雅子名古屋経済大学経済学部教授、後藤基同、茶谷淳一名古屋短期大学教授、磯部作日本福祉大学社会福祉学部教授、梅原浩次郎愛知産業大学経営学部講師のほか本学から森靖雄教授、安保邦彦同、岡部一明準教授が参加しました。雲南大学からは、曹和平雲南大学副校長、程士国同準教授、高旗雲南行政院教授ら10名がシンポジウムに参加しました。

会議は、午前九時半から始まり昼食の休憩をはさみ午後5時分まで続きその後、6時10分まで質疑と討論を行いました。各シンポジストによる発表は、「日本の中国への投資における分析」、「ASEAN市場における中、日主力商品の競争力の分析」、「トヨタ自動車の国際戦略車IMVの展開」、「チベットの経済発展」、「アジア共同体における中小企業の役割—日本の経験から—」、「東アジア共同体—日本財界の要求とその背景—」、「雲南省国境貿易における人民元の地域通化への研究」、「東アジアにおける農産物国際貿易に関する検討」など多岐にわたりました。

質疑では、中国側から「日本における企業の発展と公害問題」、「日本の農村における現状」等の質問がありました。中国は、どこでも工場から出る各種のばい煙や大型バス、トラック、乗用車の排気ガスで大気汚染が深刻化しています。自動車は、中古車が多く走っており空気の汚れに影響を与えており、“四日市ぜんそく”など日本の公害の歴史に関心が寄せられました。

開催中の国際シンポジウム

